

# 響ひび音

「響」とは「郷」の「音」と書きます。私ども東京福祉社会では、この温かなものを大切に「心に響く葬儀」を目指しております。



今号の  
エッセイ

## 「後の始末」 医学博士・東京大学名誉教授 養老 孟司氏

新年のご挨拶/職員の想い・抱負/創立100周年記念式典・記念祝賀会 開催報告  
令和元年度 物故者永代慰霊法要 御礼と報告/東京福祉社会からのお知らせ

おかげさまで創立100周年



社会福祉法人 **東京福祉社会**

# 新年のご挨拶



社会福祉法人東京福祉会  
理事長 原山 陽一

新年あけましておめでとうございます。  
2020年の年頭にあたり、謹んで新春  
のお慶びを申し上げます。

皆様におかれましては、健やかに新年を  
お迎えになられたことと存じます。

社会福祉法人東京福祉会は、大正8年11  
月6日の創立以来100年という大きな節目  
を迎えることができました。

これもひとえに皆様方のご支援とご指導  
の賜物と、心より感謝申し上げます。

創立者で、当時の東京市神田にて油問屋  
を営んでいた渡邊竹次郎翁は、一家の主が  
治療の為に財産を使い果たして亡くなって  
しまい、お金が無くて葬儀が出来ないと泣  
きふすばかりの家族を見て、「これでは社会  
不安になる」ということで、「財団法人 助葬  
会」を創設しました。

歴史を振り返れば、関東大震災や東京大  
空襲の2度にわたる災禍により法人の全財  
産を喪失するなど、安寧な道のりではあり  
ませんでした。

当時の宮内省からは、大正10年に現在の  
練馬区小竹町の御料地をいただき、大正15  
年に納骨堂「聖恩山霊園」を建立しました。  
現在では、文京区に「道灌山会館」、練馬区  
に「江古田斎場」、国立市に「ホール多摩国  
立」と3つの直営式場を整備しており業容  
を拡大しております。

そして、最後の時にその人生を尊重し寄  
り添うことを使命に、今日まで生活困窮者  
の為に助葬事業を行う全国でも数少ない社  
会福祉法人として、地域社会に貢献してお  
ります。併せて公益事業についても、地域の  
皆様のお役に立てるよう、ご家族や知人・友  
人の方々でお見送りする近親葬やお別れ会  
等、形式にとらわれない、その人らしさを  
大切にしながらご葬儀を提案しております。

さらに、平成12年の介護保険制度の発足  
と同時に特別養護老人ホーム「練馬高松園」  
を開設し、平成19年に隣接して「第2練馬高  
松園」を開設。そして、令和3年に3つ目の特  
別養護老人ホーム（仮称）第3練馬高松  
園」の開設を予定いたしております。今後も

地域包括ケアシステムを支える中核施設と  
して、引き続き地域に貢献していきたいと考  
えております。

わが国では、今後75歳以上の後期高齢者  
が、特に大都市部において急増すると予測  
されており、高齢期の生活を支える当会の  
役割は益々重要になると考えております。

今後も介護や葬儀など、高齢期の生き方  
をトータルに支える法人として成長してま  
いります。

今年の干支は庚子（かのえね・こうし）です。  
ねずみは繁殖力が高く、繁栄の象徴とさ  
れています。また、十二支の一番目であるこ  
とから植物にたとえると新しい生命が種子  
の中にぎざし始める時期であるともされて  
います。

社会福祉法人東京福祉会は今までの100  
年の感謝をあらわすと共に、これから先の  
100年に向けて、さらなる発展を遂げられる  
よう、役員一丸となって「強い決意」と「強  
い意識」で業務に邁進してまいります。

本年が、皆様にとって実り多き年になり  
ますよう心よりご祈念申し上げます。

# 職員の想い・抱負

様々な部門で業務に取り組む職員の100周年への想い・抱負をご紹介します。

江古田斎場 霊園課  
主任 荒木 清美

縁あって葬祭の仕事に就いて17年。いつも身近にあった「死」ですが、見つめないように目をそらしていたように思います。

「人は必ず死ぬこと」  
「いつ死ぬかは分からないこと」  
今日が人生の最終日かもしれないと思えていたなら、多少のことでは動じない肝の据わった生き方が出来ていたのかもしれない。そして何より、大切な人との別れに後悔の涙を流さなくて済んだのかもしれない。

聖恩山霊園の納骨堂には毎日多くの方がお参りに来られます。おばあちゃんに見せたいと成人式の振袖でお参りに来られた方、息子さんを亡くされた高齢のお母様…。お葬式やお墓のかたちは100年前とは様変わりしましたが、故人を悼む気持ちは変わりません。ひとりひとり違う悲しみに寄り添う仕事に誇りをもって、これからも励んでいきたいと思えます。

練馬高松園 在宅支援課  
副主任 上野 孝

私は地域包括支援センターの職員として、平成29年に入職いたしました。

地域包括支援センターでは、担当地域のご高齢の方やそのご家族の方の相談を受けています。特に心に残っているのは、支援の拒否があったケースです。親戚の方や近隣の方から情報をいただき訪問した際には「今は必要ありません。」と門前払いでしたが、職場内で協力して通院に同行し、介護保険の申請からサービスに繋ぐことができたときの達成感は今でも思い出出すことができます。

「相談して良かった。どうもありがとう。」と言っていただけ時は、この仕事に就いて良かったと感じます。

これからも、職場の仲間たちと力を合わせて、地域の方々のお力になっていきたいと思えます。

第2練馬高松園  
副園長 中山 英治

平成7年に入職し、勤続24年目となりました。入職後は様々な仕事をしてきましたが、中でも渉外部という葬儀前後のアドバイスを行う部署で、多くの気づきがありました。

特に、遺族の悲しみを癒すためのグリーンフワーク「わの会」では、それぞれの家族の絆や思いをより深く知ることができました。

また多くの方々に、当会葬儀へ「感謝の言葉」をいただいたことはとても貴重な経験です。これは長年、葬儀のノウハウを積み重ね、地域の皆様との信頼関係を築いてきたからだと思っております。

100周年という節目の年である平成31年4月より特別養護老人ホーム第2練馬高松園の副園長という新しい業務を行っております。

私にとって園での日々は、毎日新鮮です。当会で得た家族の絆や思いを大切に、ご利用者とその家族、地域の皆様や職員、当園に関わる皆様が、毎日笑顔で過ごせる施設を継続して行きたいと思えます。

# 後の始末



医学博士・東京大学名誉教授

## 養老 孟司

1937年(昭和12年)神奈川県鎌倉市生まれ。東京大学医学部を卒業し、東京大学大学院基礎医学で解剖学を専攻、医学博士号を取得。解剖学者。東京大学名誉教授。1989年(平成元年)著書『からだの見方』(筑摩書房)でサントリー学芸賞を受賞。『バカの壁』(新潮新書)が大ヒットし2003年(平成15年)のベストセラー第1位、また新語・流行語大賞、毎日出版文化賞特別賞を受賞。一般的な心の問題や社会現象を脳科学、解剖学をはじめとした医学・生物学領域の雑多な知識を交えながら解説することによって多くの読者を得ている。犬の虫好き。昆虫採集・標本作成を続けており、約10万点の昆虫標本を所蔵している。

### 葬儀はだれのもの

始末というのは、きちんと済ませれば、気持ちのいいものである。それがうまく行かないと、まさに「済みません」と言わなければならぬ破目に陥ることになる。

葬儀の場合はどうだろうか。葬儀は一生の始末なのに、それがきちんと済むかどうか、これは本人とは関係がない。葬儀は本人がするわけにいかず、遺族がするものだからである。もちろん本人が生前にあれこれ注文を付けることはできない。その好例としていつも思い出すのは、小林秀雄が書いた『本居宣長の葬儀についての部分である。

宣長(一七三〇〜一八〇一)は江戸中期の国学者、伊勢松坂の人である。いまでも普通はそうだが、当ても常識として葬儀は仏式、寺で行われた。ところが国学者は総じて仏教嫌いだから、宣長の葬儀に関する遺言はじつに詳細を極める。さもないと仏教式の葬儀になることを嫌ったのである。葬儀の次第の詳細から始まり、墓に至っては略図を描く。山上の地を柵で囲って墓石を描き、そこに「本居宣長之奥津城」と記す。宣長は山桜が好きだった。

「しき嶋のやまとごころを人とはば朝日ににほふ山ざくら花」

だから墓に山桜を一本植えると書き、その素描まで入っている。そこまではいいとしても、「その桜が枯れたら植え直せ」と指定する。それを知って私はほとんど驚倒した。

葬儀の詳細が尋常ではないので、宣長の没後、遺族は本人の言う通りの葬儀を出していいか、それを役所に問い合わせたらしい。さすがに当時の役人は大人で、「この葬儀は甚だ異例である、とりあえず通常の葬儀を行い、その後、本人の指示通りにすればいいだろう」と返事をしたという。宣長の場合、葬儀は遺族のものというより、まさに「自分のもの」だったのである。現代で言くと、無宗教の葬儀がやや似ているかもしれない。無宗教の場合、その形式は決まっていない。だから本人の遺志による。私は一度だけ、無宗教の葬儀に出たことがある。ご本人も存じ上げていたし、無宗教の葬儀はあまり感心しないよ、と生前本人にも言ったことがあるが、やはり無宗教で行われた。この場合、宣長のよう詳細まで決めておかないと、会葬者が手持ち無沙汰になる。

実際に葬儀には出たものの、することがなくて困った覚えがある。まあ、本人にしてみれば、無宗教を主張すること自体に意味があると考えたのであろう。それはそれでいい。そうしか言いようがない。

近年は家族関係がすっかり様変わりした。葬儀はもはや家族葬、直葬のほうが多くなったようである。私が慣れ親しんだいわゆる葬儀の形態は、とくに都会では廃れつつあるらしい。原因の一つは、むしろ宗教離れで、生前に行ったこともほとんどないお寺から、お坊さんと呼んでも仕方がない。ここは宗教側にも反省の余地があるう。

ここで宗教論をすると長くなる。ただ指摘しておきたいことがある。とりあえず葬儀と関係ないようだが、現代は観光客がものすごく増えている。私は生まれた時から神奈川県鎌倉に住んでいる。典型的な観光地である。観光に来る人に、なぜ鎌倉なんですか、と訊くと、はじめは緑が多いとか、自然に恵まれているとか言っ。緑なんて、過疎地に行けば、掃いて捨てるほどありますよ、海だって日本中いたるところにある。そう

意地悪を言うと、最後に出てくるのは「でも雰囲気がありますよ」という答えである。これはあんがい正解かもしれないと思う。ではその雰囲気の内容はなにか。じつは緑を含めて、それを維持しているのは神社仏閣である。つまり特定の宗教、宗派ではない、言うなれば宗教的雰囲気が必要なのである。そう気が付くと、外国の観光旅行でも似たようなものである。フィレンツェならルネッサンスのあれこれを言うかもしれないが、現在の中心はサンタ・マリア・デル・フィオーレ、花の聖母寺ではないか。その意味で現代人は伊勢神宮を訪れた西行法師とほとんどまったく変わっていない。

「なにごとのおはしますかは知らねども かたじけなさに涙こぼる」

神道の神様はややこしいから、だれが祀られているのか、よくわからないけれど、なんともありがたいなあ、というわけであらう。

宗教のない社会はない。そう言われることがある。現代のアメリカ社会は日本より宗教的だと思っうが、それでもA-1というシンギュラリティーを新しい宗教だとする

人もある(片山恭一『世界の中心でA-1をさけぶ』新潮新書)。共産主義は宗教を阿片だとして排斥したが、結局は自分が宗教に類似したものになった。毛沢東にせよレーニンにせよ、ミイラになって残っている。宗教は常に死者と関係が深く、だからいわゆる宗教離れを、私はじつは信じていない。いまでは宗教の形、それに従って葬儀の形が変わらなければならぬだけのことである。若者が集まるパワースポットなどというものも、私には新興宗教の一種に見える。聖地巡礼みたいなものであるう。理性はそれを否定することが多いけれども、結局は人は宗教的なものが必要とする。私はそう思っている。

## 死とは

大学の医学部に奉職していた現役の時代、私の専門分野は解剖学だった。だから死者にはいわば親しい状況にあった。病院で亡くなった患者さんがお寺さんに行く前に、私どものところにお立ち寄りくださる。解剖が済むと、こちらで火葬して、お骨をお返しするの

である。

そういう仕事だから、医者ではないし、そうかといって、お坊さんでもない。まあ変な中間管理職であるうか。東大医学部の場合には、年に一度、谷中の天王寺で解剖体慰霊祭がある。これにはほとんど出席していた。べつに慰霊祭に出なければ、という固い決意があったわけではない。でもなんとなく出たいし、三十分ほどのお経を寺の本堂で正座して聞いているのも悪くなかった。おかげで死者の慰霊については、考える機会が多かった。その影響もあって、いまでは鎌倉の建長寺に虫塚を建立して、毎年六月四日、虫の日に虫供養をしている。

面白いことに、いろいろな人を誘ってみるが、ほとんどの人が嫌がらない。供養に出席するというのは、信心の有無を問わず、なんとなく「良いこと」と見なされているのではないか。とくに虫の場合には、浮世の義理や利害損得と、およそなんの関係もない。そうしたいわば純粹な供養という気持ちで、多くの人が喜んでくれるのではなからうか。

その日は私が知り合いのだけか

と建長寺で対談をまずやる。そのあと、お坊さんたちに虫塚で法要を営んでいただく。皆さん、神妙な態度でお焼香をしてくださるのである。思えば現代人が殺す虫の数は半端ではない。日本の農業における農薬使用量は、統計によれば、単位面積当たりにして世界最高である。農業に限らない。四方八方に発達した高速道路を車で走れば、前面のガラスが潰れた虫で汚れてしまうことは、よくご存知であろう。新幹線は言うまでもない。車がひき殺す虫もたくさんある。仏教国のブータンは殺生戒が厳しく、人々はハエも力も殺さない。しかしホテルの街灯の笠を外してみると、虫の死骸が詰まっている。一つの灯から一晩で集めた虫を瓶に入れて、取っておいてある。何匹死んでいるか、数えてブータン人に教えようと思ったのだが、まだ数える暇がない。もっとも最近ではLEDが使われるので、ずいぶん虫が救われているはずである。

ともかく現代人は虫をやたらに殺す人たちである。それもあって虫供養を行っている。私が昆虫採集を続けているためだけではない。虫を意図的に殺すからこそ、逆に供養をしないと行われなくなる。私の死に対する考え方は、若い頃に比較すると、やや変わってきた。自分でそう思う。でも本質は変わらないという気がする。以前からなんとなくそうだったが、自分の死を真面目に考えることはない。いまでは自分の死を考えてもムダだ、とはつきり思うようになった。「俺は死んだな」と思うのなら、生きてるのである。それなら本当に死んだらどうなるか、自分ではわかりはしない。毎日毎晩、寝ていることを考えたらすぐにわかる。死を昔から永遠の眠りと言うが、要はそういうことである。それは無で、無が怖いという人があるが、べつに怖くない。寝るのが怖い人がいるだろうか。眠りの場合には、目が覚めると確信している。だから怖くないというかもしれないが、寝ている間は確信もクソもない。覚めるつもりで死んでいるのである。人というのは、そういう風に勝手なことを考えるのである。

でも客観的に言えば、自己の死はあるでしょう。それはそうだが、その死を確認しているのは、決して自分ではない。客観というものは、現代人ないし欧米文化の悪癖である。客観とはじつは神様目線だからである。この瞬間に世界全体では数十人の人が臨終を迎えている。でもそれは間接的な知識であって、私自身とは関係がない。そもそも世界で誰がいま死につつあるのか、私にわかるわけがない。だからそれをわかったように言うのは、まさに神様目線ではないか。専門家はゆえに死は二人称だという。私もそう思う。身近な人の死であるほど、死は重くなる。親子兄弟、連れ合い、親友。そういう人たちは遺された者の記憶の中に生きていて、それがさらに本当に死んでいくには、長い時間がかかる。だから法事は何度も繰り返す。死者を思い出すということもある。忘れるためでもある。自分が忘れたことを確認するのである。それでいい、というか、それしか仕方がない。

共同体はどこに  
直葬や家族葬が増えたということとは、世間の人間関係が浅く、軽くなってきたことを意味する。その原因はいくつかあると私は思う。まず第一は、都市化である。ビルのアパートやマンションに住み、隣はなにをする人ぞ、という生活になった。でもさらにその大きな背景は人口増である。人も商品と似たようなもので、たくさんあれば、個々の品物は安価にならざるを得ない。新宿駅や品川駅の雑踏を歩いていると、人間なんてもうたくさんだ、という気がしてきても不思議ではない。

私は一九七〇年頃のオーストラリアで二年暮らしたことがある。当時オーストラリアの人口は八百万人、現在は二千万人を超えているはずで、当時の三倍に近づいた。私が暮らしていた時代には、田舎で車を停めて景色を見ていると、通りすがりの車が声をかけてくれた。スマホなんてない時代だから、車の故障で停っていたりすると、場合によっては人命にかかわる。

だから親切に事情を聞いてくれたのである。人が少ないところでは、人の顔を見るだけで嬉しくなる。東京やロンドンでは、そんな気がすることはまずないに違いない。

さらに高齢化がある。現役の人が亡くなると、さすがに浮世の義理があつて、会葬者が多くなる。それでは直葬、家族葬というわけにはいかない。もちろん家族葬にして、あとであらためて「偲ぶ会」をするという手もある。いまではかなり多くなつたと思う。でも考えてみれば、これは葬儀の形式の変更だとも言える。私はお焼香をして帰る方が好ましいと思うけれど、現代人はそれを嫌うらしい。核家族で、家族の人数が減つてしまふ、昔ながらの葬儀をするには、人手が足りないということもある。

ともあれ、高齢になると、浮世の義理が減つてしまふ。まだ生きていたか、と思われかねない。私なんか、学生に「まだ生きてたんですね」と言われたこともある。「棺桶に半分足を突っ込んでいる」と昔から言つ。老人は死んで当たり前、葬儀が盛り上がるというのもヘンだが、大勢の人が集まる葬儀より

は、家族葬が老人にはふさわしいのかもしれない。

現代は核家族が主流を占める。横浜市では単身所帯が四割を占める。東京もまもなくそうなるに違いない。人々が個人で暮らすようになったのだから、葬儀が盛り上がるわけがない。すでに述べたように、死は二人称である。独り暮らしでは、知り合い、つまり二人称関係の人の数もたかが知れている。こういう状況を専門家は「共同体の喪失」という。田舎暮らしは周囲がうるさい。そういう理由で多くの人が郷里を去つて都会に出た。その「うるさい」の意味を十分に考えただろうか。

災害があると、人々はおたがいに助け合うことを思い出す。いまではそれをボランティアなどという。老人の私は、なにをいまさら、と思つてしまふ。村は確かにうるさいけれども、いざという時は助け合う。つまりうるさい人間関係はじつは昔風の保険だつたのである。日常のうるさい人間関係は、保険の掛け金だつた。いわば全員が貧乏だったから、お金をかけない保険を掛けたのである。

テレビを見てみると、保険会社

の広告が多い。村落共同体の機能の一部は、保険会社が請け負う時代に変わった。これは良し悪しではない。むしろそうした保険の機能が、常に社会では必要とされるということに過ぎない。ただし人間関係がお金に変わることが人生を豊かにするかというなら、それは違つた方向に言わざるを得ない。でもその方向にいったん走り出すと、もはや止まらない。これも人の習性だともいうしかないであろう。現代の世界では、都市に住む人が八割になつたと言われる。都市はそれ自体では成り立たない。だが、食料を生産するのか。それを考えただけでもわかるであろう。こういう時代は続かない。少子化を考えても、それは当然である。都市は人を再生産しない。人口の再生産率が日本で最も低いのは東京都である。下から二番目は京都府。都が人を生産しないことは歴然としている。都市だけが存在する世界では、人は滅びるしかないのである。人類の葬儀を請け負う「人」はいない。

## 養老 孟司(ようろう たけし) 《著書》

『ヒトの見方』(筑摩書房)、『からだの見方』(筑摩書房)、『考えるヒト』(筑摩書房)、『解剖学教室へようこそ』(筑摩書房)、『唯脳論』(青土社)、『身体の文学史』(新潮社)、『バカの壁』(新潮社)、『遺言。』(新潮社)、『養老訓』(新潮社)、『毒にも薬にもなる話』(中央公論社)、『ぼちぼち結論』(中央公論新社)、『ミステリー中毒』(双葉社)、『半分生きて、半分死んでいる』(PHP研究所)、『いちばん大事なこと―養老教授の環境論』(集英社) など著書多数。

# 記念式典及び記念祝賀会を たしました

令和元年11月6日、おかげさまで当会は創立100周年記念日を迎えました。同日、上野精養軒にて記念式典及び記念祝賀会を盛大に挙行いたしました。当日は晴天に恵まれ、関係各方面の約170名の方々にご列席いただき、お祝いのお言葉をいただきました。誠にありがとうございました。

## 【記念式典】

当日午前十一時、会場となった上野精養軒三階《桐の間》は、ご列席者でいっぱいになり、式典は定刻通りに開会しました。



初めに、当会理事長がご列席の皆様に向け挨拶し、ご列席の御礼、当会の歴史、一〇〇周年記念事業、今後の課題等についてお話をさせていただきました。

次に、ご来賓を代表して四名の方より祝辞をいただきました。

- ◆祝辞をいただいたご来賓の皆様
- ◇東京都副知事  
(東京都知事祝辞代読)  
梶原 洋 様
- ◇厚生労働省 社会・援護局長  
谷内 繁 様
- ◇文京区長  
成澤 廣修 様
- ◇社会福祉法人東京都社会福祉協議会 副会長(会長祝辞代読)  
横山 宏 様

今回の式典では、当会役員への表彰も同時に行われました。役員

功労者に感謝状が贈られ、職員の永年勤続者も表彰されました。感謝状が贈られた当会役員功労者は四名。役員を代表して苅安達男が壇上に入り、当会理事長より感謝状と記念品が手渡されました。次に、職員の永年勤続表彰を行い、勤続三十年以上の職員六名が表彰されました。賞状と記念品が贈られ、代表の関谷 忠章が受け取りました。

## ◆役員功労者

- ◇理事 苅安 達男
- ◇理事 多久島 耕治
- ◇監事 岩瀬 佐千世
- ◇評議員 宮内 眞木子

## ◆永年勤続表彰対象者

- ◇業務本部 ホール多摩国立 福田 広次
- ◇業務課長 江古田齋場 根本 稔宏
- ◇総括担当課長 根本 稔宏
- ◇渉外部 渉外担当部長 明智 賢一郎
- ◇業務本部 道灌山会館 次長兼同副場長 関谷 忠章
- ◇業務本部 江古田齋場 福祉担当課長 寺部 好一
- ◇業務本部 江古田齋場福祉課 主任 松田 勇二

また、当日は関係各方面から多数の祝電もいただいております。最後にその一部を紹介し、式典は十一時四十五分に閉会しました。



記念祝賀会



記念式典



# 創立100周年 盛大に挙行い



上野精養軒(式典当日撮影)



練馬区長  
前川 耀男 様

東京都社会福祉協議会  
副会長 横山 宏 様

文京区長  
成澤 廣修 様

厚生労働省社会・援護局長  
谷内 繁 様

東京都副知事  
梶原 洋 様

## 【記念祝賀会】

祝賀会は、上野精養軒三階(桜の間)に二十六の円卓状宴席が用意され、正午に定刻通り開宴、当会理事長の挨拶で始まりました。

東京都副知事 梶原 洋様に乾杯のご発声をいただき、歓談・会食の流れとなりました。当日の料理は洋食のコースで、美酒も加わり、終始和やかな雰囲気での祝宴でした。

バックグラウンドミュージックとして、当会古田斎場近隣にあり、お付き合いのある武蔵野音楽大学様にご協力いただき、弦楽四重奏の生演奏で祝賀会に花を添えていただきました。

その後、本日ご臨席いただいた来賓の一部の方々を紹介し、公務先から駆けつけていただいた練馬区長の前川 耀男様に来賓者を代表して祝辞をいただきました。

前川様は以前の勤め先で当会理事長の後輩であったため、当時のエピソードを織り交ぜた、ユーモアにあふれた祝辞を述べられました。

再度歓談の後、閉宴アトラクションとして中国の古典劇に伝わる、一瞬で面を変える演技「変面」が披露されました。一瞬で変わる面をご覧になるのが初めての方が多かったの

か、会場内はどよめきの声に包まれました。演技が終わり、祝賀会は十四時に閉宴しました。

会場出口では理事長以下幹部職員が一列に並び、本日ご列席いただいた皆様お一人おひとりに記念品を手渡すとともに、感謝の気持ちを込めて丁寧に御見送りいたしました。こうして、記念式典及び記念祝賀会は無事終了いたしました。

<p>社会福祉法人東京福祉会 創立100周年記念 祝賀会 次第</p> <p>開催時間:12時00分 開催場所:上野精養軒 3階 桜の間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>開会</li> <li>理事長挨拶 東京福祉会 理事長 横山 陽一</li> <li>乾杯 東京都副知事 梶原 洋 様</li> <li>会費徴収</li> <li>来賓紹介</li> <li>来賓代表挨拶 練馬区長 前川 耀男 様</li> <li>閉会アトラクション</li> </ol>	<p>社会福祉法人東京福祉会 創立100周年記念 式典 次第</p> <p>開催時間:11時00分 開催場所:上野精養軒 3階 桜の間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>開会</li> <li>理事長挨拶 東京福祉会 理事長 横山 陽一</li> <li>来賓挨拶 東京都副知事 (東京都知事祝辞代読) 梶原 洋 様 厚生労働省 社会・援護局長 谷内 繁 様 文京区長 成澤 廣修 様 東京福祉会福祉協議会 副会長 (東京都社会福祉協議会 会長祝辞代読) 横山 宏 様</li> <li>来賓紹介</li> <li>役員功労者感謝状 贈呈</li> <li>職員永年勤続表彰</li> <li>閉会 休憩(会場移動)</li> </ol>	<p>社会福祉法人東京福祉会 創立100周年記念式典・祝賀会 式次第</p> <p>令和元年11月6日(水) 11時00分～14時00分 於 上野精養軒 3階 桜の間・桜の間</p>
--	---	---

▲当会職員が手作りした式次第

令和元年度

# 物故者永代慰霊法要 御礼と報告



東京都福祉保健局  
次長  
松川 桂子 様



東京都福祉保健局  
生活福祉部 保護課長  
西脇 誠一郎 様

江古田斎場では、東京都福祉保健局 次長 松川 桂子様に、ホール多摩国立では、東京都福祉保健局 生活福祉部 保護課長 西脇 誠一郎様にそれぞれ丁寧なるご挨拶を賜りました。

慰霊法要の終盤には、当会の法人案内のDVDをご覧いただき、また慰霊法要後には各斎場内にて、納骨堂、面会室等を見学していただきながら、当会の事業へのご理解を一層深めていただけたのではないかと思います。

また、参列された方々の故人様をお送りされた思いが感じられ、ご案内をさせていただいた私共も改めて身の引き締まる思いでありました。

今後とも各福祉事務所、各施設の皆様より託されまして御霊を、心を込めてお守りしていく所存でございます。

ご関係者の皆様方にかかれましては、ご多忙とは存じますが、是非とも年に一度の法要にご参列を賜りますようお願い申し上げます。



社会福祉法人東京福祉会  
理事長  
原山 陽一

東京福祉会では、去る11月

1日に練馬区の江古田斎場において、また11月13日には国立市のホール多摩国立において、聖恩山霊園 堀内是長導師の読経のもと聖恩山霊園納骨物故者永代慰霊法要を執り行いました。

慰霊法要には、各福祉事務所と各施設の皆様にご参列いただき、当会からも理事長を始め役員、職員が参列いたしました。



江古田斎場  
聖恩山霊園納骨物故者永代慰霊法要

社会福祉法人 東京福祉会

# 東京福祉会からの

## お知らせ

### 人形・ぬいぐるみ供養のご案内

お子様の成長を見守ってきたお雛様や五月人形、おともだちとして一緒に過ごしてきたぬいぐるみ…その役目は終わってしまったけれど、ただ捨てるのは忍びない。そんな大切な想いのこもったお人形やぬいぐるみ達を「感謝」の気持ちで供養する「人形・ぬいぐるみ供養」を、今年も真心を込めて執り行います。

当日は、僧侶による読経と、皆様のお焼香によって供養させていただきます。

なお、お預かりした【お人形・ぬいぐるみ】の総数によって、法要会場に飾りきれない可能性があります。

飾ることができなかった【お人形・ぬいぐるみ】については、翌日以降に職員立ち合いの元、読経供養を執り行わせていただきます。何卒ご了承くださいませようお願いいたします。



昨年3月江古田斎場にて執り行われた人形・ぬいぐるみ供養の様子

#### ■受付方法

お預かりの期間内に、各直営斎場に【お人形・ぬいぐるみ】と申込用紙をご持参ください。

申込用紙は、この「東京福祉会だより響」の宛名裏面に印刷されています。必要事項を記入してお持ちください。

※申し訳ございませんが、郵送によるお預かりはいたしかねます。

#### お預かり場所

- 道灌山会館  
文京区千駄木3-52-1
- 江古田斎場  
練馬区小竹町1-61-1
- ホール多摩国立  
国立市谷保892-1

#### お預かり期間

令和2年3月2日(月)～3月11日(水)  
10:00～15:00

#### お預かり費用

無料

#### 法要開催日

令和2年3月13日(金)  
11:00～12:00  
於 江古田斎場

#### ■お預かりできるもの

【お人形・ぬいぐるみ】(お人形が手に持っている道具類も含まれます)

◎材質：制限なし

◎容量：縦60cm×横43cm×高さ45cmの1箱に納められる分まで

※箱は東京福祉会でご用意しています。ご自宅から運ぶ際に使用された箱や袋などは、お持ち帰りをお願い致します。



#### ■お預かりできないもの

【お人形・ぬいぐるみ】以外のおもちゃ類、仏像などの宗教用具、はく製、お面、兜・鎧飾り、ひな壇や桜、橘などお人形の付属品、収納ケース(ガラスケース、ひな人形個別収納箱など)



お預かりの可否など、不明点は渉外部までお問い合わせください。

# 東京福祉会の 100周年記念 会友加入キャンペーン

2020年  
3月31日(火)  
まで

終了間近!!お早めに会友Bプランにご加入ください!

加入金のみで  
月々の掛金・年会費は  
一切不要です

ご加入者と3親等までの  
ご家族にご利用いただけ  
ます (会友規約第5条)



届け出によりご加入者の  
名義変更が可能です(無料)

※半永久的に会友資格が継続できます。



キャンペーン期間中  
会友Bプラン加入金

## 5,000円

※キャンペーン終了後の  
新規加入金(通常)は  
10,000円になります。

会友Aプランから、会友Bプランへ変更の場合…加入金4,000円

## 会友Bプランのお得な10特典!

- 基本葬祭料金 30%割引
- 直営斎場使用料 50%割引  
(道灌山会館・江古田斎場・ホール多摩国立)
- 生花1基サービス
- ご葬儀後、花とみどりのギフト券1万円分進呈
- くらしの学習講座への参加
- 祭壇脇生花(ご遺族・ご親族に限る)10%割引
- 貸し式場費用10%割引
- オプション品(湯灌・受付テント等)1万円割引
- エンディングノート進呈
- 相続税、遺品整理の優待利用



- ①会友制度Bプランのご案内一式
- ②葬祭料金のご案内
- ③ご火葬のみプランのご案内
- ④道灌山会館のご案内
- ⑤江古田斎場のご案内
- ⑥ホール多摩国立のご案内
- ⑦聖恩山霊園のご案内
- ⑧葬儀のあとの  
手続き・届け出事項



資料請求  
ご葬儀に関する詳しい資料(料  
金、式場等)をご用意しています。  
下記連絡先までお気軽にご請  
求ください。

お問い合わせ・お申し込み

〈電話〉 ☎0120-00-5677 東京福祉会 渉外部

〈E-mail〉 info@fukushikai.com

〈URL〉 http://www.fukushikai.com

東京福祉会

検索



「東京福祉会だより(響)」は  
環境に優しいベジタブル  
インキで印刷しています。